

ユニバーサル広告社 ～あなたの人生、売り込みます！～

テレビ東京 10月20日(金)夜8時スタート!

原作 「花のさくら通り」萩原浩(著) 主演 沢村一樹

シャッター通りまであと一歩。さびれた「さくら通り商店会」の再生プロジェクトを請け負ったのは、和菓子屋の2階に移転してきたばかりの超零細&倒産寸前の広告制作会社だった…。最初はポスター制作だけのはずが、いつしかタッグを組み商店街の活性化を目指す…。一癖も二癖もある人々が織りなす、まちづくり小説。

【あらすじ】

資金繰りが悪化し、ついに今までの事務所を引き払って郊外に移転してきたユニバーサル広告社。想像以上にこぢんまりしていた JR 桜ヶ森駅…から更に隔たった、さくら通り商店街の和菓子屋・岡森本舗の2階が新たな事務所となるが、もう会えない娘からの葉書が楽しみで仕方ないバツイチのコピーライター・杉山、バイトの猪熊は不安と不満が入り混じるし、社長の石井にしても「こんなところ」呼ばわりする始末。ただ1人、アートディレクターの村崎は「なかなかパンク」だと気に入った様子である。商店街の人々は広告社の面々をよそ者扱いするが、こちらはこちらで問題を抱えていた。行覚寺の門前町として賑わったさくら通りも今は昔。商店街はシャッター通り寸前で、第一さくら通りと言いながらいぶん昔に桜並木は伐採されてしまった。それでも年齢と創業年数がものを言う商店会は上層部の睨みが厳しく、事態を好転することはできずにいる。いちおう商店街に区分される、桜ヶ坂の若者向けショップの店主たちとの反目もあるし、駅前のスーパー「デイリーキング」との価格競争など課題は山積みである。サラリーマン経験のある岡森店舗の跡取り、守(まもる)は危機感を募らせるが、現状は簡単には変わりそうもない。

一方、行覚寺の跡取り息子である光照(みつてる)と、桜ヶ坂の教会の娘である初音(はつね)はインディーズのパンクバンド“ヘルキャット”のライブで知り合い、交際を始める。しかし光照は思い悩む。寺の息子と教会の娘がつきあってよいものか? そして、これから最低3年間の修業に入る自分を、彼女は待っていてくれるのだろうか? 家業のことを隠しつつ、いつかは告げねばならないと思いつつ、光照は初音との時間を過ごす。事務所の上に住み込むことになった杉山は、守からポスター制作を依頼された毎年6月の恒例行事“さくら祭り”について、せっかくだからと大規模な改革案をプレゼンするが、あえなく空振りする。しかし、限界での連続放火犯さがしに参加したのを切っ掛けに、守、光照、ラーメン一番、蕎麦の藪八、小島酒店、喫茶ドルフィンといった商店会の一部と信頼関係を築き、さくら通りと桜ヶ坂の間も徐々に打ち解けたものになっていく。杉山の提案や「悪知恵」もあり、商店会の面々は“さくら祭り”を盛り上げ、「デイリーキング」を出し抜き、高齢化が進む桜ヶ丘ニュータウンで青空市を開くなどするが、なかなか大成果を挙げるには至らない。

そんな若手の動きが、商店会長である煎餅屋「丸磯」の磯村たち上層部には面白くない。ことあるごとに茶々を入れ、自分たちの発言力を維持しようとする磯村たちに対し、守はある決心を固め、杉山は一計を案じる。制作が持ち上がりながらも懸案となっていた、さくら通りのCM制作。大金を出資した商店会の影のヘッド、すみれ美容室の寿美代先生の忘れられない男(ひと)チェリー・ルーへの想いを届かせるために、そしてもちろん商店街の命運を賭けて、杉山のプレゼンは幕を開ける…。